

2013

春

SINCE 1983



NETWORK VOL.150

TERRA



ミカンの剪定を会員の鶴田雅俊さん(鹿島市)に教わるミャンマー人研修生(ナウンカ地域開発センターにて)

■「自然の摂理と支えあい」

佐賀大学農学部 of 染谷孝先生は農業共済新聞に「土の微生物～地球生命を支える小さな巨人～」という週一回の連載を執筆していらっしゃる。その第3話の「牛は微生物なしには生きられない？」には目からウロコのお話がかかれていた。

曰く、牛はワラを食べるが、ワラの主成分であるセルロースを分解する酵素を自ら持たず、第1の胃の中にワラを分解しブドウ糖にする微生物をたくさん住まわせている、つまり共生し助け合っているということだ。それも驚きだが、感動はこの次だ。なんとセルロースを分解した恩人の微生物の一部を第4の胃でたんぱく質として容赦なく摂取しているということだ。肉を食べない草食動物がタンパク質を摂取する方法が解った。容赦無用だ。しかし、牛がタンパク質を摂取できなければ死滅し、牛が死滅すると微生物も住むところなくなる。微生物は身を挺しての、なんという支え合いだ。

自然界は人知を超え恐ろしい程お互いを支えあっている。共に生きていかなければ、生きていけないのが自然の摂理だ。その中で、私たち人間も自然の摂理の中で生きていけるようになるためにどうすればいいかを唱え続けたのが古賀武夫先生だった。地球市民になれ、と。

今年で亡くなられて5年が経った。

CONTENTS ■ 2013春

古賀武夫先生の言葉を辿る
一所懸命 恩返し Vol.4
『心得十か条』

大野 博之 2

■地球市民の会

和顔愛語 会長 佐藤 昭二 3

行ってきました！ミャンマーエコツアー！！ 4～5

TPAミャンマー・プロジェクトの中間総括 6

～タイ通信～新しい奨学金事業が始まります 7

LCCを活用した日本語を学ぶ中国人大学生招聘事業
TOMODACHI 100プロジェクト 8地球市民の会、明日はどっちだ！
3カ年計画の会議の模様をレポート 9

地球市民の会事務局 行く人、来る人 10

協力者一覧 11

■夢の学校

夢タマの思い出 12～13

■和道流古賀道場

道場通信 14

■古賀英語道場

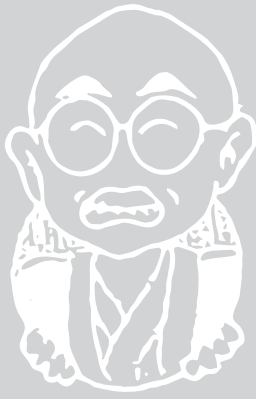
英語的思考のススメ Vol.12 15

■共同執筆

4～7月のお知らせ 16



世界の平和と親善 地域社会の向上発展



一所懸命 恩返し Vol. 4

『心得十か条』

大野 博之

今号も「古賀武夫ブックレット 第四号 『一所懸命 恩返し』」(平成七年一月、平成十一年六月)から、古賀先生の一九九六年(平成八年)の後半の言葉を辿ります。

私の九州論

「二つは食糧の自給自足で、日本が最も出ていないことだ。二つ目は基礎教育の普及。これに関連して三つ目は自分たちの地域の環境を知ること。環境保全に農山村がどういう役割を果たしているかを知ることが大切だろう。四つ目は、人間は自然の一部であり、自然との共生によって生かされていることを意識することだ。」

古賀先生が好きだった言葉に「自給他足、他給自足」があります。禅を学んだ先生らしい言い回しです。「自分のものを他の人に与えれば、他の人が自分に与えてくれるという意味ですか?」と尋ねたところ、「そうとも言えるが、お前は損得で考えるところがまだ甘い。自分が他人に施せば自分の喜びが増え、他人から施されれば感謝で自分の喜びが増える。何だつてうれしうれしになれつてことだ。他の人がどうしようとし、自分が幸せになろうと思えば何時でもなれる」と答えられました。これに「相互扶助関係に深く意識を向け、自然の一部である人間は自然に対して謙虚でなければならぬ。それが生かされる自分に気づいた証だからだ。」と普段から話していたことが合わさつて、これからの九州、この場合「日本」と言ったほうがいいかもしれません。の進むべき道の基本として、上記の四か条を挙げていたのでしょうか。上記「私の九州論」は発行先は不明ですが、雑誌の特集で「九州発 私の九州論」に掲載されていたインタビュー記事の中にあります。

地球市民の会的 国際協力心得十か条

一、人に求める前に、自分のことは自分やれ。協力は自助努力のあるところにせよ
二、協力する喜び、達成感、成就感が活動の源

三、スタートラインに付くまでの協力が我々の役目

四、求めるな、与え合え

五、対症療法より根本治療

六、自立を待て。そのためには手段は問うな

七、援助は、心・魂の成長ある人に

八、身近な人に認めてもらう

九、食うことが一番、食えば生きられる、生きていけば何かいいことが出来る。

十、リーダーの三条件は、気合、智慧、持続力

タイでのテラトピア計画が難しい局面に入りつつある時期でした。九十三年二月に始まった山岳少数民族カレン族の村、タイ王国チェンマイ県メーター村でのプロジェクトであったテラトピア計画。その目的はいずれ来る近代化の波に飲み込まれ村が衰退することを防ぐために、自給自足で自立できる村を作ることになりました。当初、合意をした援助側の地球市民の会と被援助側のメーター村学校ではありましたが、その理想の前に途上国の最貧困地域の状況は厳しく、住民には近未来の理想よりも、今ここにある問題を解決することを望むようになりました。

簡潔に言うと、将来に向けて自立でき食べられる学校システムを作った↓近隣から噂を聞いて子どもを連れて親が来た↓自立のために受け入れられる子どもの数の限界を超えた↓山岳少数民族の貧困な子どもすべてに教育を与えたい学校は自立用の畑を校舎にしたいと言った↓自立を前提にした地球市民の会は出来る範囲で運営すべきだと主張↓学校は全ての子どもが教育を受け貧困の鎖から放たれるべきだと主張した。長期的ビジョンに従い進めたい地球市民の会と、今ある子どもたちの問題をなんとかしたい学校の間で意見の違いが出てきたところの古賀先生の心境を汲み取れます。

古賀道場の 学び方心得十か条

一、人に教えてもらう前に、自分のことは自分でやれ。努力に勝る天才なし

二、生かされ、学ばせていたただける喜び、達成感、成就感が稽古・勉強の源

三、スタートラインに付くまでが先生、親の役割、それからは自分で走れ

四、感謝が信頼となり心の絆となる

五、基本をしつかり正せ

六、遊びが好きならしつかり遊べ、後悔するな、必ず起き上がる時が来る、自分を信じて自分を持て

七、教えは心・魂の成長ある人に

八、身近な人を笑顔にせよ

九、食うことが一番大事、食えば生きられる、生きていけば人の役にたてられる。

十、リーダーの三条件は、気合、智慧、持続力

皆さんもご存知のように古賀先生は豪快そうに見えて繊細なところもありました。タイのテラトピア計画での板ばさみの苦勞は古賀先生自身にもいろんな意味で考え直す作業をさせたようです。途上国と向き合う先進国や被援助者に対する援助者という関係性と教育を受けるものと教育者の関係性を対比させているのが、前出の「地球市民の会的 国際協力心得十か条」と「古賀道場の 学び方心得十か条」の表現でわかります。英語道場では「NHKラジオ講座」を毎日聞くことを受講の条件にしていました。十か条の一、二、三番目は自らが立ち上がる姿を求めているメッセージでした。英語の受講生にもそれを求めたのでしよう。空手はこのころ、少年の部の対外的な試合での好成績を受け、別段、稽古に励め、というメッセージはなかったのですが、「自分の好きなことを見つけて打ち込め」「一度はじめたら最後まであきらめるな」「笑っている」ということをおっしゃっています。十か条の八番目に「身近な人を笑顔にしろ」が入っているのは、タイの子どもを幸せにするために眉間に縦しわを寄せて、難しいことでも悩まなければならない状況を憂いていたのかもしれない。

(以下続く)

会長エッセイ

和顔愛語



認定NPO法人 地球市民の会

会長 佐藤 昭二

声なき声

「菜の花や 宴の下に ひそと在り」

今、まさに花見で賑わっております。

菜の花は昔からとても好きな私でしたが、この頃特にその感が強くなってきたようです。

物事を見る角度が違って来ているのでしょうか？

これは私が齢を重ねたことでもあるかもしれません。

主役の座を得ることなく一生懸命に咲く花に感動します。

15年程前、広島から来られたあるご婦人を、ここ幣立神宮の森を散歩がてらにご案内した時です。

裏のご神田の畦道で、ふと立ち止まりそのご婦人が急に声を上げて泣き出したのです。正に号泣です。

そこには名も知らない小さな、ちいさな真っ赤な花が数本咲いていました。

余程気を付けて見なければ見過ごしてしまうような花でした。

ご婦人はその花を見て泣かれたのです。

後になって泣かれた理由を尋ねましたところ「私は小さい時から誰かに評価されたい、目立ちたい、いつも人の上に立ちたい、という思いが強く、常に人の目を気にして今日まで来ました、しかし今日ここに来て、あの花

を見た時、誰にも見られることなく、誰にも褒められる事なく、ただ自分を一生懸命咲いて生涯を終える花を見たとき、表現のし難い感動が込み上げてきました」ということでした。

以来そのご婦人とは親戚の様にお付き合いを頂いて居ります。

自然界は常に私達に気付きを促しております。

しかし花見の宴の如く、いつの間にか私達はひそと咲いている菜の花を踏みしだいて居ります。

悲しいかな人間社会においても小さな声が私達に届かないのが現状です。

否、聞こうとしないのが現実なのかもしれません。

地球市民の会はこの声なき声を聞き、受け止めて行かなければなりません。

我々地球市民の会には、この声なき声を聞き受けることの出来る仲間が沢山います。

当初私が就任挨拶で述べさせて頂いたように「一人の100歩より100人の一歩」を実践する時が来たのです。

私達一人ひとりが功利打算を離れ、内なる自分と対自する時が来たのです。

行ってきました！ミャンマーエコツアー！！

3月6日から12日にかけてミャンマースタディーツアーを行いました。

今回のテーマは「エコツアー」。

ミャンマーの大自然、農村の中で、ミャンマーの暮らし、文化、人に触れ、多くの気づきと学びを得たツアーでした。

なかでも、ミャンマーでも起こっている環境問題に目を向け、インレー湖の環境保全事業や植林事業などを視察しました。

ココでは、目玉だった環境教育ワークショップの模様と、そのほか皆さんの感想をお届けします♪



行程：

- 3/6 ヤンゴン空港に集合！
- 3/7 いざ！地球市民の会の活動地へ✈
タンポジセンターにてオリエンテーション&夜は交流会♪
- 3/8 インレー湖の環境問題について学ぼう！
ワークショップ、マインタク村の環境保全事業を視察、
孤児院訪問、夜はインレー湖のすてきコテージで夕食
- 3/9 インレー湖観光&環境問題を知ろう！ポートツアー、
カンカウン準中学校訪問
- 3/10 ピンダヤへ。ホームビジット、植林地見学
- 3/11 ヤンゴンへ✈ 最後は楽しい観光♪
みんなとお別れ（各自帰国や旅のつづき）



地球環境基金助成

「インレー湖を救え！ワークショップ」 inマインタク高校

今回、マインタク高校の生徒と、マインタク村の委員会を対象に環境教育ワークショップを行いました。

最初に五十嵐先生によるインレー湖の環境問題についてのレクチャー。つづいて当会の副会長兼ミャンマー委員長の山口さんによるワークショップ

最初にアイスブレイクとして行ったじゃんけんゲームは、日本の「じゃんけんぽん！」という元気なかけごえで大盛り上がり！

盛り上がったところで、本題へ。以下の3つのお題で、4～5人のグループディスカッションを行い、発表しあいました。

- ①環境保全のポイントを3つあげよう
- ②環境保全のために私たちができること
- ③この地域の環境を守っていくことで、10年後にこの地域をどのようにしたいか？

生徒も村の人もある程度の環境問題に対する意識はあり、ゴミの分別、植林の推進や山火事の防止などが大切だと答えていました。インレー湖特有の問題として、浮畑で使用する農薬や科学肥料による水の汚染なども問題視しており、TPAが教える循環型農業への転換の重要性も感じていました。実際、半農半漁で暮らしてきたインレー湖周辺の人々は、「水質の変化で魚がとれなくなってきた」という実感があるようでした。日本からの大学生参加者も参加し、自分たちの答えを発表。

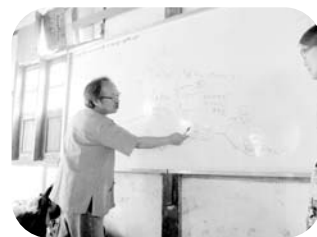
「こどもの環境教育が大事」「ゴミ拾いを子どもたちと一緒にするのはどうだろう」「ゴミ拾いしながら、最後はどれがどんなゴミか（土にかえる、かえらないなど）教えるとか！」など活発な意見を出していました。

10年後の目指す姿としては、「ゴミなしの地域」「きれいなインレー湖の復元」「魚が獲れるような湖」「ハゲ山が木でいっぱい」「協力・助け合い」「ミャンマーのエコモデル地域に」というすてきな意見が！これから、環境保全の意識を継続して持てるよう、私たちも呼びかけていきたいと思います。



五十嵐先生の声

ミャンマーの学校でグループディスカッションができるという環境自体が素晴らしいこと。これからもっとこういった取り組みを広げられればいいと思う。



カンカウン準中学校訪問

昨年のスタツア参加者が取り組んでいる学校建設プロジェクトの対象校「カンカウン準中学校」にも行ってきました。

学校の教育委員会が来てくれ、話を聞かせてくれました。その中で特に印象的だったのはインレー湖の環境の変化を感じさせるお話でした

「昔は教育に無関心な親も多かった。その中で学校をつくり、教育委員会で一軒一軒訪ねて子どもを学校に行かせるように説得しました。」

「どうやって説得したんですか？」

「私たちは魚をとって暮らしてきました。おじいちゃんの時代は1日漁をすれば大きな魚が3匹とれた。それがお父さんの時代には1匹。

こどもの時代には、その魚もとれなくなるかもしれない。だから将来困らないように教育を受けさせるんだ、と。」

貧困を脱するため、いい仕事に就けるように子どもに教育を受けさせることが大事だ、と村の人は言います。

そんなカンカウンの学校建設について、理解を深めたみんなは自分達もプロジェクトの仲間として頑張りたいと言ってくれました。

ホームビジット

それぞれ一人ずつ、ダヌ族のご家庭に行きホームステイをしました。ひとりっきりで数時間、言葉の通じない家でドキドキの体験です！

「日本人がやってくる！」とどこからともなく集まった何人もの村の人に囲まれて、みんなから見られながら一人ご飯を食べたり、言葉が通じないなら！と

足を真っ赤に腫らしながらミャンマーの蹴まりチンロンでコミュニケーションをとったり…。

「最初は言葉もわからず、気まずい時間が流れたけど、私が笑ったら、にっこり笑い返してくれてとても温かい気持ちになって、だんだん慣れていった」とうれしそうに参加者は語っていました。

やはりミャンマーの一番の魅力はミャンマー人の優しい人柄だな～としみじみと感じました♪



<参加者の感想>

大橋 響くん (大学1年)

今回のツアーでは、毎日行く先々で様々な刺激を受けることが出来ました。普段から勉強しているビルマ語の成果を試す良い機会にもなり、自分にとって本当に意味のあるツアーだったと思います。

色々なことを学んだ中でも、インレー湖の環境問題を通じて実感したことは今でも自分の心に色濃く残っています。ボートから美しいインレー湖を眺めながら、この湖を守るために何かできればいいなあ…と漠然と考えていました。まだ具体的なことは分かりませんが、湖の上で暮らす人が安心して、健康を害さず生きているようにするお手伝いが出来たら嬉しいと考えるきっかけになりました。

また、カンカウン準中学校を訪れ、学校が今どのような状況に立たされているのか、その現状の側面を見ることができたのも印象的でした。去年のスタツアメンバーが始めたプロジェクト、僕も是非積極的に関わっていきたく思うので、よろしくお願いします！

そして最後に、このツアーで培った皆さんとのつながりを大切にしていきたいと思います。「勉強になった」で終わりにせず、スタツアで学んだことを今後に生かすためにも必要なことですよね！ツアーに参加して、本当によかったです。

針崎 万梨恵 (大学2年)

ミャンマー文化、環境問題、農村のくらしを体験することができました。普通の旅ではできない、貴重な体験ができて参加して良かったです(^^)

感動することばかりでしたが、特にホームビジットでは着いてすぐ、30人くらいに囲まれたりしてびっくりしました。村の人たちも初めて見る日本人にびっくりしてました

言葉は通じないけど英語や教科書、本を使って一生懸命コミュニケーションをはかろうとしてくれたのが嬉しかったです！

私にくれた女の子が3人いて、1人はもうすぐ先生として働く21歳。残りの2人は農家の19歳と21歳でした。先生になる子は、日本に感謝していると言っていました。理由は、学用品を寄付してもらったことを言っていたような気がしました。(間違ってるかも。)私もミャンマーが日本の支援をしたことに感謝すると伝えました。彼女は地震や地震のことを知っていて、とてもsorryに思うと言っていました。

ワークショップや、準中学校を視察してみて、私たち大学生ができることをしていきたいと思いました。あやこ学校建設のプロジェクトを引き継ぎます。また続けてよろしくお願いします(^^)/

北村 綾子 (大学2年)

見ず知らずの日本人を快く家に招待してもらえてくれるミャンマーの人々の人間性、野菜をたくさん使った美味しい料理、圧巻される歴史的建造物、可愛い模様の布や小物、美しい自然などなど、ミャンマーのあらゆる面に触れ、ミャンマーが大好きになりました。(私と万梨恵はもうすでにミャンマーっ子になったつもりでいます♪)

学校を建てたい！インレー湖を守りたい！気持ちばかりが先走ってしまいそうですが、しっかり地に足付けて、強力なアドバイザーに助言をもらいつつ自分たちにできることから着実に実行していこうと思います。

布留谷 望 (大学3年)

改めて一言述べるとすれば、「このスタツアに参加して本当に良かった」という言葉に尽きと思います。

新たな環境、新たな人との出会いを通して、自分に足りないものを再認識するとともに、自分の目指す道に誇りと勇気を持てるようになりました。

・ホームビジットは、ご飯→世間話→チンロン→トラジー運搬→水浴び→ミャンマー名(Yan Kin Aung)をいただく、という流れだった。最後には、「もう俺たちの家族だよ」と言ってもらえたことが純粋に嬉しかったです。

・スタディツアー全体を通して感想3点。

①言葉は話せなくても、スポーツを通して交流をすることができるのだということを実感できた。一緒に楽しい時間を共有することで、これからたくさんの人々と交流をし、関係を築いていきたい。

②今回は「スタディツアー」としての旅なので、学生が自由に旅をするのではなく一定のルールがあるものだった。また、教授陣やTPAの皆さんもそれぞれの目的があって参加なさっていたため、いかにして両者をつないでいくかを意識していた。うまくそれができたとは思っていないが、個人的には1人1人かとたくさん話をし、学びがあったのでよかったと思う。

③物事を表面的な部分でしか見られていなかったり、論理を重視するあまり目の前で「今」助けを求めている人に目を向けられていなかった自分を恥ずかしく思う。のんさんをはじめ皆さんとの会話の中でそれに気づくことができたのでよかった。

TPAミャンマー・プロジェクトの中間総括

副会長、ミャンマー事業委員長：山口久臣

1. 世界の南北問題、地球環境問題と国際協力とスタディ・ツアー

1987年は、地球市民の会が故古賀武夫前会長を中心にアジアへの国際協力活動を始めた年である。コーディネーターは、タイ人の故ジャナロン・メキンタクラ氏。ここから始まった。当時のタイの東北部（イサーン地方）や北部タイを“地球隊”と云う、まるで麻薬（？）の様なスタディ・ツアーで訪れたTPAのメンバーらは、アジアの途上国の貧困と云う現実に一様に驚き、そんな中での特に子どもたちの純粋さや明るさに感涙した。タイの田舎で日本人が失ってしまったものや人間の本質に気付き感動し魅せられて何度もタイに通うようになった輩が続出した。そして、それらの一連のタイでの感動的な多くのエピソードに胸打たれた輩を当時、一種の敬意を込めて“タイ病患者”と呼んだ。当時のそれらタイ病患者は、故古賀前会長とジャナロンに触発されて全国的に増えて行き、地球市民の会ネットワークへとつながっていった。そして、そんな行動力なのか浪花節なのかは分からないが、実は世界の南北問題や地球環境問題、そして国際交流や国際協力について体験的に学び考えて行った。そんな旅での実践的な体験学習、“TPAスタディ・ツアー（学びの旅）”がTPAの本格的な国際協力プロジェクトへの始まりであった。そして、それらの時に古賀武夫とジャナロン・メキンタクラによって提起されて行った本質的なテーマがあった。それは、“人間にとっての真の豊かさとは何なのか!? 文明は、本当に人間を幸せにするのか!?”と云うものであった。これは今も尚、究極のテーマとして続いている。

2. ミャンマー・プロジェクト、これまでの10年

2002年頃にTPA理事会で大議論の末に鹿児島のカラモジア財団から引き継ぐ形で始まったのが「TPAミャンマー・プロジェクト」である。ミャンマー連邦共和国シャン州における“自然との共生による農法を基盤とした循環共生型社会の創造”をコンセプト&ミッションとしたプロジェクトが本事業の本道である。



漁をするインレー湖の漁師

そして、この10年間本事業の財源として来たのは、事業の運転資金的な形となった日本のODA（政府開発援助）を財源とした外務省やJICAからの委託金、補助金や民間からの助成金、そして寄付金による事業で、3年間で1スパンとしてミャンマー政府との契約の基に進めて来たのである。この10年間の事業の内容は、優秀なる日本側のスタッフとミャンマー現地のスタッフに恵まれ詳細については別に譲るが実に充実した賞賛に値するものになっている。客観的に評するならば、これらミャンマー・プロジェクトのこの10年間の展開は、TPAの日本社会におけるNPO、NGOのコンセプト&ミッションが確立して来たと言っても決して過言ではないと云えよう。

さてさて、ここに来て次なる大きな課題は、これまでの事業展開を基盤にしながらかつて展開をどの様に考え企画し内外との合意形成をしながら展開して行くのかにあると考えている。



アジア自然学校ミャンマーの拠点の一つ
タンボジ研修センター

3. 今後展開の3年、5年、7年、10年へ向けて 基本的なコンセプト&ミッション

日本社会の大きな節目は、大体3年、5年、7年、10年にあると考えている。

それから考えるとこれからのミャンマー・プロジェクトも一つの考え方として、これらのスパンで考えてみたい。

そして、是非とも次の様な提案をしたい。

○プロジェクト展開の基本的な考え方

- 1) これまでの事業財源である外務省、JICA等のODA系の補助金及び、民間助成金への依存体質からの脱却。
- 2) その地域の資源や素材を活用して、その地域の課題、問題を解決して行くことを事業化、ビジネス化して行くコミュニティ・ビジネス（CB）の創造。ミャンマーにおいてもこの原則は同様である。
- 3) ミャンマー現地の人たちが主体となって、2) を実践して行くための体制の構築（マネジメント（人、物、金、場、組織、広報、リスク・マネジメント（M））の整備、しくみづくり等）。
- 4) TPA日本とTPAミャンマーが連携・協働（ネットワーク&パートナーシップ）して行く体制としくみの構築。
- 5) 本事業の考え方としくみを内外に周知して行く（幅広く合意形成して行く）。



ミャンマーの子どもたち

4. まとめとして 国際協力と地域づくり、そして「アジア自然学校」へ向けて

我々は、海外に出掛けて行き、そこでその地のためになると思えることや交流し協力出来る活動を“国際交流、国際協力”と位置付けて、いろいろな活動を展開して来た。なるほど然りである。決して間違っていないかった。どころか、それらの活動を称して民間主導型のこれらの事業や活動をNGO活動として来た。

しかし、少し視点を変えて観るとそれらの活動は殆どが、その国や地域での“地域づくり”そのものであることに気付くのである。国際交流、国際協力と云う一見グローバル（Global）な活動も地域づくりと云うローカル（Local）にしてコミュニティ（Community）での活動も実は、同根異解釈・同根異表現なものであり同じことなのである。つまり、グローバル（Global）+ローカル（Local）＝グローカル（Glocal）な活動なのだ。更には、Think Globally & Act Locally and Think Locally & Act Globally. もしかしら今はLocalよりむしろCommunityとした方が適当かも知れない。＝ 地球的に考え地域的に行動し、かつ地域的に考え地球的に行動する!!と云うことである。これらの考え方はもうすでに20年ほど前に云われていたことなのだが、今また新たにしっかりと再認識しながら行動する時に来ている様に思えてならない。そして、TPAでもこのところをしっかりと確認して行きたいのである。最後に、今や地域づくりの大きな具現化の一つが、“自然学校”なのである。自然学校の詳細については別の機会に譲るが、少なくともミャンマーの田舎の地域振興の構図も日本の農山漁村の地域振興の構図もその状況や条件のレベルの違いこそあれ同じなのである。だから今こそまさに、改めて“地域づくりありき”であり、ミャンマー・プロジェクトの一つの象徴として「アジア自然学校ミャンマー」をコンセプト&ミッションとして今後展開を企画提案して行きたいと思う。



インレー湖岸に繁茂する外来種のホテイアオイ

～タイ通信～ 新しい奨学金事業が始まります

1987年にタイでの活動を始めて26年。

タイで長年行ってきた奨学金事業も、タイの子ども達の現状に合わせて生まれ変わることにになりました。地球市民の会で、誰よりもタイを知り尽くした西村尚子理事が、現在のタイ東北部を紹介します。

～タイで出会った子ども達～

タイ東北部、イサーン地方。ウドンタニ空港から車で30分でノンハーン地区に入る。新しい日本車が数多く通る4車線の大通りから横道に逸れてすぐの村を訪れた。祖父母と住む少女、中学一年生のオン・アノーンさん。母親は亡くなり、父親はバンコクに出稼ぎに行ったまま音沙汰がないという。糖尿病を患っている祖父は働くことができないので、庭に飼っている鶏が産んだ卵を一つ3パーツで売る祖母の収入で生活している。庭に作っている野菜と卵を売ったお金がこの少女の生活費と学費となる。彼女は子どもと接するのが大好きなので、将来、先生になりたいという。



地球市民奨学金の担当をしていたクーキャオ学校から転勤して、ノンハーン地域で公立学校の先生をしているスラポン先生も、今回の調査をするまで、こんなに貧しい環境にある子ども達がいることを知らなかったという。タイでは糖尿病を患う人が非常に多く、今回の家庭を視察していても、いたるところに糖尿病を患っていて、働くことができない人々がいた。

また、離婚した両親からバンコクで他人の手に渡った女の子にも出会った。事実を知った彼女の祖母が、バンコクまで行って彼女を取り戻したという。



～変わってきた環境～

現在行っている奨学金は、違法な雇用による搾取から子どもたちをまもるために、最低限の教育を受けるとことが目的であった。しかし、現在は法律により、100%に近い子ども達が義務教育を受けている。一方、タイで不法な労働に就くのは40%が子どもであるともいわれている。また、昔のイサーン地方の森林面積は、1950年代は約60%、1980年代は14%と言われている。ウドンタニ県でも最近、4つの大規模なサトウキビ工場などができたため、農家の人々は進んで田畑を売り、ゴム畑やユーカリのプランテーションが続々とできていく。ユーカリは生育が早くて生産性に富んでいるが、その成分により土地を荒らしてしまう。今までは自分の畑で採れたもので生活をしていたのが、土地を売った農家の人々は最低限の生活の基盤をも失ってしまう。加えて現金支出が増え、イサーン地方の人々の貧しさを増している原因となっている。

～貧困から抜けられない～

教育に理解がない親は、自分と自分のこどもの将来のために何をすべきかを考える前に、現金が手に入ると電気製品を購入する。雨漏りしそうな屋根でセメント塗りの壁の家に住んでいてもテレビがある。教育は、人生を良くするためのパスポートであるとスラポン先生は言う。教育なしには、将来に対するアイディアがない。タイでは高校を卒業しても、工場の労働者になるか農夫になることしか選択がなく、食べていくのが精いっぱい仕事にしか就けない。まして、家族も地域の人々を貧困から救うこともできない。

貧困の格差が今も尚、子どもたちを苦しめており、社会から隔離し出稼ぎや離婚により、物言えぬ子どもたちが将来に希望を持ってない状態がある。

～貧困から抜け出すための奨学金～

そこで、地球市民の会とタイのスラポン先生や地球市民奨学金を受給したノンハーン地域の先生と、新しい奨学金を始めようということになった。貧困の連鎖から抜け出せない層の子どもたちの存在に着目し、大学を目指す子どもたちに奨学金を支給する。家庭の中から一人でも高等教育を受けることができれば、その家庭と周りの人々を貧困の輪から引き揚げ、自立して生きることができるようになる。タイ現地では、スラポン先生をリーダーとして奨学金を受給した卒業生などが貧困な状況にある子どもたちの掘り起こしをする。将来は地球市民の会タイを作り、当会の理念を持った人々が活動を広げていくことを最終目的とする。



私のタイ現地訪問は今回で10回目。長い奨学金活動に新しい道筋ができ、やっとほっとしている。「年だからキツイな」と思って日本を旅立つが、イサーンに到着していつも思う。やはり現場はいい。子どもたちの笑顔にあえるから・・・。

タイ事業担当理事 西村尚子



TOMODACHI 100プロジェクト

今こそ日本人と中国人は心を開いてかたりあうべき時だ！

今年の8月21日(水)～8月31日(土)にかけて中国の大学生を佐賀・九州へ招聘します！
ホームステイや日本人大学生との交流を通して相互関係を深め合う11日間のプログラムです。

このプログラムを始めたきっかけ

日中の関係は必ずしも良好とはいえない状態です。国と国では問題など起こっても、人と人
とが繋がることで少しずつでもお互いの意識を変えていきたい!と考えています!地球市民の
会のこれまでの経験を活かし、お互い思い合える友だちづくりが必要であると思います。

また、上海と佐賀を結ぶLLC(格安航空会社の春秋航空)が今年の1月に就航し、今こそ
佐賀に拠点を置く、地球市民の会が交流事業を行うべきであるときだと思ったためです。



地球市民の会として人と人との交流を通して友好関係をつくっていききたい！

1988年に始まった「かちがらす計画」は、当時の日韓の関係性も良好とはいえない状態でした。そこで、偏見と誤解を払拭
し、友好関係を築くために交流事業を行ってきました。今の日中関係も昔の日韓の関係と同じような状態ではないだろうか!と
思い、人と人との交流を通し友好を築いていくために計画をたてました。

佐賀県としても中国との関係性を強固なものにしていきたいと考えています。そこで、佐賀県へ提案して、共催として進めています。
人と人との交流を通し、友好を育むことで、相互で訪問しあえるような心の家族になることを目指します。



今回の参加者

日本語でコミュニケーションがとれる優秀な中国人大学生を90名招聘します。

【予定】

上海理工大学、東華大学、上海大学、上海外国語大学、同濟大学、浙江樹人大学、
浙江大学城市学院、等々

10校の大学から募集をする予定ですが、1校から1名の先生が引率します。日本大学生も募集を行い、一緒に交流をします。
全体のプログラムを3つに分けています。



第1プログラム(8月21日～24日)

第2プログラム(8月24日～29日)

第3プログラム(8月30日～8月31日)

第1プログラム

全体で動くプログラムで公的な施設や行政、企業訪問をして、佐賀大学での大学院の留学オリエンテーション、ハウステンボス
などの視察も行います。ここで、中国人参加者間のコミュニケーションや日本の生活・歴史・文化の基礎について学びます。

第2プログラム

地域でのホームステイと実行委員会形式の地域の受け入れプログラムを実施し、普通の旅行では体験できない、日本の心、
本当の生活を学びます。

第3プログラム

学生交流をメインにし、世界の問題のディスカッションや、日本語弁論祭、ワークショップなどを実施します。

1週間は100人を各市町村でのホームステイ事業もあります！



ホストファミリー募集します！

佐賀県内で中国人大学生を受け入れていただけるホストファミリーを募集しております！

期間は8月24日(土)～28日(土)の5泊6日です。参加者は日本語が堪能で日本が大好きな学生さんです。国と国では諸
問題があっても、今の時期だからこそ民間交流を深めていきたいと思っています。是非、機会に中国の大学生と交流を深
めませんか??尚、お昼間は各地域の実行委員会もしくはNPOが中心となってプログラムを組んでいます。

地球市民の会、明日はどっちだ！

3カ年計画の会議の
模様をレポート

去る、3月16日、17日、佐賀市古湯温泉にて、2013年度から2015年度までの3カ年計画を策定する会議が実施されました。会員の皆様に置かれては古湯温泉での開催に、飲んでばかりだったんじゃないか、という疑問もお有りのところでしょうが、それは熱く語り合う2日間となりました。

地球市民の会は今後どちらに向かうのか、その結果の概略をお知らせいたします。5月18日の会員総会には完成版をご案内いたします。

理事会の意義と3カ年計画の意味

もともと、地球市民の会が実現したい理想の社会は創設者古賀武夫が夢見たものであった。しかし、現時点において、「一人の100歩ではなく、100人の一歩で、古賀武夫が求めたものを求めよう」という緊急理事会（2008年）の合意の下、地球市民の会が実現したいことは、理事会の実現したいものになった。したがって、理事会は地球市民の会の意思決定機関であり、事務局は理事会の決定を実現する機関である。3カ年計画は理事が目指すゴールであり、事務局が実施する様々な事業の指針である。

地球市民の会の達成したいゴールの確認

2010年に定義された地球市民の会の達成したいゴール
「地球市民として、足るを知り、他の人の幸せを自分の幸せとして感じられる人が地域・日本・世界で活動している。」を再度吟味し、問題のないことが確認された。

地球市民の会 2021年の達成目標

2013年から9年後に地球市民の会がどうなっているべきかのゴールの姿を4つの視点で策定いたしました。

海外事業

対象国（タイ、スリランカ、ミャンマー、ラオス）にそれぞれの国のソーシャルワーカーが中心になって主体的に運営されている各国地球市民の会が出来ていて、日本の本部と対等に地球市民運動が出来ている状態

国内事業

地域の課題解決のために、国際交流と地域活性化事業を通し、地球市民意識（相互理解と相互扶助）を持った社会ができていく
指標：持続的な国際交流と地域活性化事業の実施地域ができていく

人材育成

地球市民運動を実践する次世代の人材が育成され、地球市民運動を発信できる外部の拠点ができていく
指標：地球共感教育の提携校ができていく
TPAユースが組織内にできていく
佐賀大学等に国際協力サークルができていく。
婦人会などに国際協力の女性グループができていく

組織の持続的発展

社会を変革する組織として支持され、安定的な自立経営継続している
※この項目は、組織のファンドレイジング、アカウントビリティ、ガバナンスにかかるディスカッションでロジックモデルに欠落されていた。会議では言及されていないが、具体的な活動内で議論された経緯から加えることとした。

2015年の各事業の達成目標 ～3年間に達成する目標です～

ミャンマー事業

これまでのノウハウをベースとした地域が主体となったコミュニティビジネスとアジア自然学校ミャンマーが成立し、運営できる体制となっていて、TPAミャンマーの準備が整っている。

タイ事業

2015年に支給が終わるタイ奨学金のこれまでの総括がなされ、新奨学金事業の大学生への支給が始まる。

TPAタイが出来ている。

チャリティショップ「ばーん・たわん」がニューボーン以外にも独立店舗を持って運営されている。

スリランカ事業

一年ずつの交流事業が毎年実施され、奨学金の新規募集人数が____人（人数の確定まではいたっていません）になっている。

ラオス事業

ラオス事業が立案、実現され、JICAの草の根パートナー型が採択されている。

中山間地元気再生プロジェクト

オリブ事業が他の地域活性化事業の中核となりつながりあっている。

オリブが中山間地の休耕田・耕作放棄地に植栽されている。

オリブの事業が他団体との協働事業となっている。

国際交流地域活性化事業

事業が3年間継続され、ホストファミリーの数が150軒を超えている。

東日本大震災支援事業

当初の支援するマインドが続いており、被災地とつながりながら、佐賀で情報発信がなされており東北にTPAの拠点が出来ている。災害支援体制を整えている。

地球共感教育事業

講師派遣を3年間で90箇所実施し、ふるさとステイ事業が継続的に実施され、____箇所の集落で____人の参加者が3年間にあり、保護者が____人会員になる。（数値はこれから確定させます）

企業・行政協働事業

ミッションに合った協働事業が実施されている。企業とはソーシャルビジネスやCRMなどに焦点を絞り、企業の社会貢献事業での協働が展開されている。

資金調達・ファンドレイジング

国内管理費は会費と会への寄付金でカバーされている。寄付は会への寄付40%、事業への寄付60%とし、収入比率を会費・寄付：助成委託：自主事業＝3：4：3の比率にする。

会員サービス事業

2ヶ月に一回は会員を対象にした集まれるイベントが実施されている。DRMが導入され有効に活用されている。

ガバナンス強化

地球市民の会の対外的信用は高まり、九州の代表的NGOとしての地位を確立する。

ソーシャルメディア

地球市民の会の活動を知る人が増え、ソーシャルメディアが連動しフェイスブックページの「いいね」が1000となり、ツイッターのフォロワーも1000を超える。

広報出版事業

地球市民の会を説明できる資料がそろっている。

組織体制

理事の自己実現の場としての団体となり、世代交代された事務局は理事会の意思実現機関として機能する。

地球市民の会
事務局

行く人、来る人



戸田 玲子

皆さん、本当にありがとうございました。

地球市民の会、佐賀でお世話になった4年間。たくさんの出会い、たくさんの笑顔、たくさんの温かい想いを頂き、とってもとっても楽しく幸せに過ごすことができました。のんびりゆったりでしか動けない私を、温かく見守ってくださった皆さん、手を差し伸べてくださった皆さん、我慢してくださった皆さん、本当にありがとうございました☆佐賀にきたばかりの頃は、心細くしくしく泣くこともありましたが（笑）、今では、すっかり大切なふるさとです。

6月末、青年海外協力隊でバングラデシュへ旅立つ予定です。10年前、「ご飯が食べれること、温かい布団で寝れること、家族に囲まれて生きれること、それらが当たり前ではない」と私に教えてくれたのがバングラデシュでした。「人の幸せ」を願える心を充電して、戻ってきたいと思っています。

皆さんとの思い出を力に、新しい環境を楽しく大切に過ごしていきたいと思っています。

また、地球のどこかでお会いできる日を楽しみにしております☆これからもどうぞよろしくお願いいたします。
皆さんの幸せを願って…

ここでの1年と9か月。すごく長かったように感じていましたが、振り返ってみるとあっという間で、何にもできなかったなあというのが一番の感想です。2011年3月に起きた出来事はまだ四半世紀しか生きていない私にとって一番影響を与えた出来事で、地震、津波、原発事故・・・私の世界は3.11以降大きく変わってしまいました。3月10日に戻れたら・・・と無力感に襲われる日々の中で佐賀から元気を送ろうキャンペーンの事務局員として日々を過ごすことになりました。そして、佐賀と東北をつなぐ役割、そして佐賀県のみなさんに震災支援に参加してもらえるのか、毎日悩みました。そして終わりを迎えた今、なんにもできなかったけど、「何かしたい」という気持ち、そして、それに対して行動したというのは事実でそれが東北の方、そして佐賀の方々に伝わっていたらいいなあ、そんな風に思っています。そして、ここでしか得られなかった出会いや経験が、今まさにじんわりと大きな充実感となり、今後の自分を支えてくれると信じています。それは震災がなければ出会えなかったことですので、それに対する複雑だけど感謝の思いを胸にかみしめながらこれから事務局は離れたいと思います。福島の言葉で「ならぬことはならぬ」という言葉がありますが、「忘れてはいけないことは、忘れてはいけない」。そんな気持ちでこれまでの経験を生かしながら今後もステップアップしていきたいです。本当にお世話になりました。そして、ありがとうございました。



高祖布佑子

皆さま、初めまして！2月から戸田さんの後任として、タイ・スリランカ事業の担当をしています。

私は福岡県久留米市出身の25才。九州で国際協力に携われたらいいなと思っていた中で出会ったのが、地球市民の会でした。



大久保 瑠

ここに来て早2ヶ月、毎日タイやスリランカ、ミャンマー、中国などなど世界中の話を聞いたり、ボランティアさんや会員さん、いろんな人との出会いがあり、毎日楽しく仕事をさせて頂いています。

私は学生時代に、1年間アフリカの赤道直下の国、ウガンダでボランティアをしていました。毎日バナナを食べながら水洗トイレ、シャワーがない生活をしていただかげで、特技はどこでも生活できること！肌の色、話す言葉、文化や食べ物も全く違う国での生活でしたが、家族が出来、親友が出来、言葉では表せない大切なことを学んだ1年間でした。

変わり者の私ですが、少しでもタイやスリランカを身近に感じたり、遠い国ではなく、お隣さんのように感じてもらえるように仕事をしていけたらと思います。これからよろしくお願いします！

協力者一覧

※2013年1月12日～2013年3月31日まで

正会員

北原 壽豊
古賀 慈猛
古賀 大之
古賀 友大
古賀 洋子
堤 加奈子
徳光 清孝
戸田 玲子
野口 翔平
藤瀬 伸恵
古川 昌宏
牧瀬 弓子
満岡 聡
本村 満江
岩永 清邦
江口 恵美
大久保 瑠

賛助寄附会員

江里口 五月
南里 健
南里 葉子
福井 丈一郎
村井 公道

書き損じハガキ・古切手

アソウ ミヤコ リョウ
有田町社会福祉協議会
医新研究会 円城寺久好
泉 加奈子
磯部 芳子

今村 京市
基山町役場
佐賀北高通信制
鍋島小学校
鍋島幼稚園
馬場 龍之介
眞崎 綾子
松尾 千秋
御厨 初美
本村 喜代
森永 勝馬
諸富社会福祉協議会

寄附金

岩谷 トモ子
国際協力NGOセンター
成尾 雅貴
人間の翼「零戦」復元実行委員会
森永 勝馬
山下 雄司

ホームページ支援寄附

仲村 恵
丸山 文章

ミャンマータンポシサポーター

ココラウエスト(株)
佐賀富士パディング(株)
ジャパン福岡パブリッシング販売(株)
住宅エコポイント
西山 峰次

カンカウン準中学校建設支援寄附

坂本 和美

ミャンマー寄附

兼宗 真

クーキャオ高校

青柳 光美
円城寺 久好
大塚 寿美雄
大野 博之
加藤 由紀子
佐々木 佳寿子
納江 幸利
馬場 龍之介
祓川 清美
前田 綾子
松林 久美子
的野 直喜
森永 勝馬

クーキャオ中学校

愛野 良治
池田 サチ子
井上 弘子
江口 恵美
榎田 智津子
榎田 奈保子
円城寺 久好
大野 圭子
岡 大雅
緒方 あかね

貝通丸 直子

亀井 一恵
川崎 朋子
倉富 博美
古賀 由紀子
小松 智子
佐藤 弘子
白井 憲一
田久保 克明
千々和 美香
富野 ともえ
中村 圭一
中村 眞美
南里 玲子
西山 峰次
納江 幸利
平川 恵里
平嶋 トキ子
平野 京子
眞子 ハマ代
眞崎 健次郎
松林 久美子
的野 直喜
宮地 信文
牟田 泰明
山下 雄司
吉井 学
吉賀 豊司
吉田 すみこ
渡辺 ますえ

ボーゲウ校

福井 丈一郎
戸田 玲子
西山 峰次
愛野 良治
亀井 一恵
前田 綾子
納江 幸利

シショダヤ

池田 サチ子
石井 津智子
戸田 玲子
中溝 澄子
西山 峰次
野内直穂美
松谷 清志
松林 久美子
横尾 知美

ばーん・たわん

石井 津智子
戸田 玲子
ニューポーン新古賀
大久保 瑠
市川 佳代子
渡辺 ますえ
松林 久美子
眞子 ハマ代
亀井 一恵
篠原 穂鶴
損保ジャパン佐賀コールセンター

西田 睦子
安藤 智子

タイ教育基金

西村 尚子
吉賀 豊司

支援金寄付

キャンドルの夕べ 募金箱
国際協力NGOセンター
しめなわ



※順不同で掲載させていただいております。

※大変失礼ですが、敬称は省略させていただいております。いつも本当にありがとうございます!!

国際ふれあいつェスタin佐賀

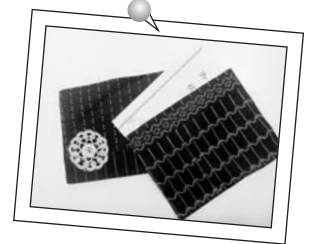
今年も出展します!!

日時:7月13日(土)、14日(日) 10:00~17:00

場所:佐賀城本丸歴史観 館内園庭西側(佐賀市城内2-1-18)

今回はタピオカミルクティーを出します♪ぜひ飲みにきてください!!

また、ミャンマーやタイ・スリランカの小物や、
各国の布でつくった手作り小物の販売もあります。
ぜひ足をお運びください☆



夢タマの 思い出



今年度は5名の子ども達が夢の学校タマテ箱を修了しました。
タマテ箱で過ごした思い出を子ども達とその保護者に語って頂きました。
過ごした年月はそれぞれですが、成長の軌跡をご覧ください。

諸隈聡良

ばくは、夢の学校にきたとき「ただいま」も言えませんでした。夢の学校に入って最初は何もないと思っていました。すると、書道やアロマなどいろいろできていい体験ができ、とてもうれしかったです。ダンボールの基地はとてもビックリしましたが、ちょうせんしてみたら簡単に作れてダンボールってすごいなと思いました。また、外で穴をほって遊んでいたら本当になんか大きな穴ができてみんなよくがんばったと思いました。そしてもっとうれしかったのは、みんなと友達になれたことです。みんなとはザリガニをつかまえたり、基地をいっぱい作ったり、ケンカをしたりしました。そして、四年生になりました。四年生ではいろいろな計画をして、みんなをまとめたりしました。とてもむずかしかったけど、続けていったら楽しくなってきました。英語劇は覚えるのはとてもきつかったけど、劇の才能に目覚めました。そして、人の目の前でははずかしいとはいっさい思わなくなりました。

夢タマにきて楽しいことや空手などいろいろしました。これからは、こがしらとして夢タマをちゃんとまとめてひっぱっていこうと思います。

諸隈正子（保護者）

「夢の学校って何があるのかなあ」とワクワク、ドキドキしながら聡良と一緒に見学に行き、あれから三年。あっという間の三年間でした。二年生の時は木曜日になると学校へ行かないと言い出し、夢学の先生方と作戦（！？）をたてながら空手に参加させていただいていたことがとても懐かしく思います。いろいろな環境に慣れるまで時間がかかっていた聡良も今では心も身体も本当に大きくなっています。お料理をしておいしかったと作りかたを教えてくれたり、空手でがんばったと話してくれたり、アロマでいい香りだったよとブレンドを教えてくれたり、みんなで穴掘りをしたと制服が真っ黒になっていたりと、いろいろな体験を五感で感じる毎日だったんだと思います。英語劇やキャンプでは、やりとげた時の笑顔が今でも目に浮かんできます。成功体験を通して、人の優しさや温かさにふれ、成長し強くなっていることを感じます。これまで、朝早くから、夜遅い時間まで親子共々本当にお世話になりました。見守っていただいていたこと心より感謝申し上げます。

田中俊貴

ばくは、四年生の時から夢の学校に通っています。初めて夢の学校に来た時、白井空くんが、字合わせビンゴという遊びをしてくれました。字を合わせるのがむずかしかったです。

それから、夢の学校に通う事になりました。夢の学校では楽しいプログラムや空手、華道、書道などがありました。プログラムでは料理や小学校に遊びに行ったり、手の洗い方などさまざまでした。その中で一番印象に残っているのは、東北大しんさいのお話です。しんさいのつらさがよくわかりました。それから、英語劇でばくはねずみ社員でした。みねかず君とつぼを取り合う場面は言えたけど、その後に「ワッツザッドゥ」と言うところの発音が分からなくてむずかしかったです。お泊り会ではまず、マルキョウに野菜やおかしを買いに行きました。次にシシアンライスを作りました。みんなで作ったのでとてもおいしかったです。夜は四年生だけ「起きとく」とちさとさんやともきさんとやくそくしていたけど、ばくはねてしまいました。二日目は、プールか公園かもめていました。公園に行くことになって、行くと楽しかったです。ばくは夢学に来て、決まりを守る事の大切さや自分で行動する事を学びました。夢学に来てとてもよかったです。

田中省子（保護者）

昨年4月から一年間お世話になりました。短い期間ではありましたが、前から興味を持っていた空手を始め、華道、お能など、本人にとって初めての経験も多く、大変充実した時間となりました。引っ越してきたばかりで親子共々不安の多い中、夢タマの先生が毎日小学校まで迎えに来てくださり、夕方までの時間を安全に過ごすこの場所があったからこそ、この一年生活することができたと感謝しています。なれたころに夢タマを離れることとなり、本人も後ろ髪を引かれる思いで卒業していきますが、ここでの経験とであった友達は、一生の宝物になると思います。お世話になり本当にありがとうございました。

武ちゃん語録 自然に無意識に自動的に

白井空

「ただいま帰りました。」と帰って来た一年生のころ。そのころは、本を読んだり、折り紙をするのが楽しくてあまり外に行きませんでした。

科学実験泰に人がきたことがありました。そこで、カメラにもなる望遠鏡を作りました。

英語劇際では、中身の深い物になりました。それは少し成長した二年生での一年間でした。

三年生。大きく成長した一年間でした。英語劇際の主役「虹色ムー」では、覚える言葉が多かったです。他にも初めてのお泊り会、夜遅くまで起きていました。そして、色々あった四年生のこの一年間。お泊り会では計画をしました。料理でもリーダーとなるのが多くなり、外で遊ぶことが多くなりました。一年生の時よりも四年生の時ができる事が多くなりました。でも、今度は五年生としてレベルアップしたいと思います。

夢の学校で学んだことは、大きいと思います。今までとても楽しかったです。

最高ー！！



白井由美（保護者）

夢タマでの思い出は息子が1年生の時に、冒険タマテ箱として親子で参加した親子農業体験や「おかしら」の指導による野イチゴ狩りでした。佐賀に住んでいながら何気に通っていった地域や場所で、地元の方々との交流を深めながらのイベント・経験は、息子はもちろん私自身も大いに楽しみ、かつ学ばせてもらいました。最近は少なくなってきたと感じますが、今後も父子・家族そろってテンションのあがるイベントを企画してください。

田中智樹

ぼくは、一年の終わりごろに通い始めました。やっぱり、一年のころは新しく友達も一人もいなくて、はづかしかったです。でも、二年になってからは、友達もできました。

しかも、いけ花や書道など行事を知りました。さらに、宿題が終わるとダンボールで基地を作ったりして楽しかったです。キャンプに行っても楽しかったです。

そして、最後の四年生になったら神野小から新しくきたから、うれしかったです。

そして、四年生だからみんなをまとめなければならなかったです。ぼくの中で一番心に残っていることは、ラジオ番組に出たことです。なぜかというといままできんちょうばかりしてきて、さらに佐賀市内に発表することで、きんちょうしたからです。

学んだことを生かしていきたいです。



田中和子（保護者）

夢の学校タマテ箱は二年生からの三年間お世話になりました。料理や空手、書道や華道・アロマ・お能などの日々のプログラムや英語劇やキャンプや空手大会など年間たくさんの行事に参加し、貴重な体験ができました。本人も初めは消極的でしたが、経験を通して楽しそうに体験を話してくれ、成長を感じます。

他の学年や他の学校のお友達とたくさんの経験を通して、相手を思いやる気持ちも育ったような気がします。先生方にもいろいろとお世話になり、本当にありがとうございました。



三原千怜

私は小学校に入る前、いつも夢タマにお兄ちゃんをおむかえにきていました。

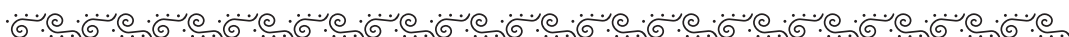
初めて一年生になってきたときには、みんないろいろなすごいことをしていました。

それは、私が、やったことのないお花や習字やお料理作りをしていました。

初めは何をすればいいのかわかりませんでした。でも、年上の人達がいろんな音を教えてくれたので分かってきました。最初一番むずかしかったのは習字です。習字道具を準備するのや筆でまだ習ったこともない字をかくのはとてもむずかしかったです。二番目はお花です。初め剣山のことを「じくじく」と思っていました。剣山にお花をさす時にうまくささらなかったり、切るときに固くて切れなかったりするのがむずかしかったです。

三番目はお料理作りです。お料理作りでむずかしかったのは、ほうちょうを持って野菜などを切ることです。おやつ作りや書道や華道などを通して、何かをしんけんにやりとおす力が大切だと思いました。また、空手では人にたいしての心がまえが身につきました。

これができたのは、おかしらや吉村先生やのり子先生、さよこ先生そして家族がいたからこれまでこれでした。ありがとうございました



三原佳代子（保護者）

吉原先生、おかしら、スタッフ他たくさんの方々に見守られのびのびと成長させていただきました。子供三人「月金」の時代からすべて、夢の学校にお世話になりました。書道、華道、アロマ、空手、料理等、多様なプログラムでたくさんの体験をさせていただき感謝しております。特に、伝統芸能の能楽や謡曲は、感動的でした。発表会では、我が子もですが他のお子さんの成長に目を細めていました。これまで、本当にありがとうございました。



守礼堂杯 第10回和道流空手道佐賀県大会

10回目となる和道流佐賀県大会を古賀道場主催で開催しました。

今回も(株)守礼堂さまからのご協賛を賜り、「守礼堂杯」争奪のチーム戦を行いました。

園児から大人の選手たちが和気あいあいと、でも真剣に試合に臨む姿はとても楽しげで、
他にはない良い大会を開催できました。

大人も子どもも大きく成長した充実の1日になったようです。



道場通信

和道流
古賀道場



🏆 今年の守礼堂杯は「青組」が獲得!!



参加者を4チームに分けて行った「守礼堂杯」争奪戦は、チームワークの良さが光った「青組」がゲット!! 個人戦の成績と、団体組手の成績のポイントを競うこの大会は最後の最後まで目が離せない白熱した戦いが続き、盛り上がりしました。



会場中に「ガンバレー」の
声が響きました!!



団体戦、チームの為に頑張りました。



全力で戦った後は、さわやかに!!

新入門生募集中!!

古賀道場では、平成25年度新入門生を大募集しております。楽しい仲間と一緒に汗を流し、一緒に学び、一緒に成長していく、そして、一生の絆がここに芽生えます!!この春、私たちと一緒に大きく雄飛しましょう!!



「国内で留学体験をすること」

今年で三年目を迎えた古賀英語道場の四大会事の一つである Global Education Project (GEP) を実施しました。道場に通う小学校四年生〜高校三年生の二十五名が Asia Pacific University (立命館アジア太平洋大学) の留学生リーダー九名と一泊二日で交流し、「英語を使う」活動をしてきました。今回のリーダー達の出身国はインドネシア、韓国、パプアニューギニア、スリランカ、イギリス、ベトナム、ウズベキスタンでした。

継続的にこのプログラムに参加することにより、生徒さん達は自分の英語力の尺度を計る良いチャンスになつていきます。例えば、一年目で何とか外国人が言っていることを聞き取れ理解でき、二年目はそれに単語で答

えることができ、そして3年目では主語や動詞を使ってセンテンスにすることができ、などという進歩を確実に自分で感じることができるようになります。英語を習得するという長い道のりの中で、このような体験を通じて英語を使う喜びや楽しさや少しづつの成功を実感することが大事なのです。体験を積み重ねることが自信にもつながります。

また、今回のプログラムのようには世界の人々と英語で接する体験すると、英語を学ぶ理由がよくわかります。これは教室の中や授業では体験できないものであり、実践をする場所や機会に遭遇することで、英語がただの勉強ではなく人と人の心を繋ぐ道具なのだと気づくのです。通じ合う喜びを感じること、英語をもっと頑張っているという目

標ができるのです。

つまり「使う場所」と「使う目的」を見つけていることが英語を習得するために必要なのです。もちろん、これは海外に住めばすぐに出来ることですが、国内ではなかなか出来ないものです。今回のようなプログラムは国内に居ながらも留学のような体験ができるプログラムだと言えます。プログラム実施後のアンケートの満足度は一〇〇%でした。全ての生徒さん達がまた参加したいと言っていました。

古賀英語道場では、英語を受験勉強や学校の科目としてではなく、コミュニケーションの道具として習得することを目的として、これから日頃のレッスンと行事を通じて努力して参ります。楽しく学ぶ仲間を少しでも増やしたいと考えてお

りますので、是非、英語に興味がある方がお近くにいらついたら紹介していただけると幸いです。



英語的思考の スス× vol.12

古賀英語道場代表の青柳達也による連載コラムです。
英語教育とグローバル人材教育というテーマについて、
色々な視点から世の中を見つめながらコメントしていきます。

4月～7月のお知らせ

●は地球市民の会、♥は古賀道場
★は夢の学校 の行事です

●認定NPO法人地球市民の会 第12回通常総会

日時 平成25年5月18日 土曜日
13:30～14:50
場所 佐賀市市民会館 第一研修室
(佐賀県佐賀市水ヶ江1-2-20)

(正会員、学生会員の皆様)はご参加が委任状をお願いします。

●地球市民大交流会2013

日時 平成25年5月18日 土曜日
18:00～
場所 あけぼの旅館(佐賀市中の小路3-10)
会費 5,000円

お飲み物の差し入れ大歓迎

♥古賀英語道場 新学期開始

4月8日(月)

♥古賀道場春合宿

4月27日～29日
黒髪少年自然の家

♥第23回古賀英語道場 スピーチフェスティバル

7月15日(月・祝)



♥夏休み・ふるさとステイ

日時 平成25年7月を予定
場所 佐賀市富士町・三瀬

♥第3回古賀英語道場

ディベートフェスティバル
7月19日(金)

小学生を対象とした夏のキャンプ



東日本大震災支援事業進行中です！「佐賀から元気を送ろうキャンペーン」
ホームページで活動をご確認下さい！ <http://www.genkiokurou.jp/>

スタッフの
ひとこと

宣言！〇〇な自分を卒業し、〇〇な自分を始めま～す

春といえば卒業式と新しい門出。それは、該当している人だけと思いきや、よく考えれば、この頃って毎年、これをやろうと決めてたりします。毎朝走るぞ、とか、痩せるぞ、とか、ラジオ講座は始めるぞ、とか。大体多くはくじけますが、今年はみんなで実現しましょう！そのためにはまず、宣言から！

地球市民の会

大野 博之 いろいろアイデアが拡がり、なんでも手を出そうという自分を卒業し、有言実行できる自分を始めます。まずは、地球市民の会の自立発展の仕組みを作り上げることとラオス事業を立ち上げること。

江口 恵美 『今年こそは慌たしい自分を卒業し、余裕のある大人な自分を始めます！』何事もギリギリで行動してしまう、面倒なことは後回し…もういい年なんだから人様に迷惑をかけないように頑張ります！

岩永 清邦 オフの使い方ができていない自分を卒業し、この1年はスケジュールに「完全オフの日」をつくり、オフの日はスポーツをします。

藤瀬 伸恵 ズバリ！「ピリ出勤」を卒業し、「トップ出勤」を目指す！去年は引越して家が遠くなったことを言い訳に、出勤がほぼピリでした！今年度こそ、朝早く来て、掃除をし、皆様にコーヒーを入れ、さすがしく仕事を始めたい！そのためには、まずは早寝早起きでしょうか…

大久保 瑠 今年新しい職場で新しいスタート♪ということで心機一転、「おっちょこちょいな自分を卒業して、計画的な自分に！」になりたいと思います！しかし事務所に来ても早2ヶ月。すでにいろいろやらかしてしまっています…。目指せ！出来る大人の女性！！

古賀英語道場・空手道場

古賀 大之 今年こそは、180度開脚ができる様に努力しよう!!そして、今年こそは絶対に結婚記念日を忘れないようにしよう!!あと、奥さんの誕生日も!!

古賀恵美子 ネガティブな自分を捨て、ポジティブシンキング的な自分になるぞっと!!

古賀 洋子 昭和55年3月から勤めた(?)古賀英語道場を、この3月末で卒業させて頂くこととなりました。生きてきた年数の半分以上です。亡き古賀先生も57歳での卒業でした。なので私も57歳で卒業です。体中をぐるぐるといういろいろな思い出が駆け巡り続けている今日この頃です。二人でペンキ塗りからのスタートでした。ただただ感謝の気持ちでいっぱいです。本当に世話になりました。出会えた皆様お一人お一人に、心からありがとうございました。今年は桜がより美しく、はかなく感じます。

青柳 達也 今年こそはブアな自分を抜け出して、リッチになってやるぞい！少しは景気よくなるかな…？

夢の学校

吉村 薫 一年の計は元旦にありといいますが…春に宣言…誕生日に宣言これではまた一年経ってしまう。…宣言するのを卒業します。

山口 則子 運動嫌い、グータラ大好きな自分を卒業し、健康生活始めます。

松原早葉子 夜型な自分を卒業し、早起きな自分を始めます。

地球市民ネットワーク

■北海道地球市民の会
〒061-3214 北海道石狩市花川北4条2-197
会長/阿部功 事務局/新保知博
TEL・FAX: 0133-74-1296

■地球市民の会ふくしま
〒963-8681 福島県郡山市喜久田町1丁目120-1
(株)石黒
会長/事務局担当 石黒秀司
TEL: 024-959-6426
FAX: 024-959-6577

■地球市民の会東京
〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町1-2-13
会長/有澤正典 事務局/佐藤敏行
TEL: 03-3662-0331
FAX: 03-3662-0400
E-Mail: arisawa@nun.co.jp

■地球市民ACTかながわ
〒231-0821 神奈川県横浜市中区本牧原3-1-203
会長/近田真知子 事務局担当/伊吾田善行
TEL・FAX: 045-622-9661
E-Mail: port@tpak.org

■地球市民の会ぎふ
〒501-6241 岐阜県羽島市竹鼻579-1
竹花園内
会長/森幹治 事務局担当/平井八重子
TEL: 058-391-5415
FAX: 058-391-8600

■地球市民みえの会
〒514-0027 三重県津市大門7-15津センターバース3F
津市市民活動センター内
会長/伊藤洋之 事務局担当/秋葉幸信
TEL: 059-226-5700
FAX: 059-224-8911
E-Mail: miemiemiemi21@hotmail.com

■地球市民の会京都
〒605-0873 京都市東山区下島町484
会長/宮川尚子 事務局担当/西田一貴

■神戸戸有頂天倶楽部
〒657-0045 神戸市灘区下河原通3丁目4-3
会長/松元隆司 事務局担当/大西陽治

■愛媛地球市民の会
〒799-0712 愛媛県四国中央市土居町
入野859-1
会長/森高康行 事務局担当/丹生谷宗久

■北九州地球市民の会
〒802-0006 福岡県北九州市小倉北区魚町1-5-14
中央会館2F
会長/河野一郎 事務局担当/大山研児
TEL: 093-521-8181
FAX: 093-551-2296

■地球市民の会福岡
〒814-0164 福岡県福岡市早良区賀茂2丁目30-4
(株)増屋内
会長/増田誠司 事務局担当/西村和寿
TEL: 092-801-5888
FAX: 092-801-5789

■(特活)コミネット協会
〒861-8039 熊本市長嶺南2丁目5-31
会長/池永憲典 事務局担当/富田、田中
TEL・FAX: 096-387-7139

■古賀英語・空手道場
〒840-0822 佐賀県佐賀市高木町3-10
TEL: 0952-25-2295
FAX: 0952-26-4922

■夢の学校をつくる会
〒840-0822 佐賀県佐賀市高木町3-10
TEL: 0952-22-6262
FAX: 0952-26-4922

ネットワーク・テラ 春号 VOL.150

発行/認定特定非営利活動法人 地球市民の会
〒840-0822 佐賀県佐賀市高木町3-10
ホームページ: <http://tpa.nk.inet>
E-mail: office@tpa.nk.inet
TEL: 0952-24-3334
FAX: 0952-26-4922

発行日/2013年4月26日
発行人/佐藤昭二
編集人/地球市民の会 事務局
印刷/株サガブリんティング